

10 小林酒造(株)(栗山町)

北の錦

1878(明治11)年創業。「造る人・米・水のすべてが北海道」をキャッチフレーズに、北海道でしか醸せない地酒を追求。量よりも質にこだわり、純米や大吟醸といった特定名称酒100%の酒造りを行っています。

9 国稀酒造(株)(増毛町)

国稀

江戸末期よりニシン漁の干石場所として栄えた増毛で生まれ、漁場で働くヤン衆のための酒造りが創業の起りです。暑寒別岳(しよかんべつ)の清冽な軟水で仕込む代表銘柄「国稀」は、キレの良い柔らかな口当たりが特徴です。

8 金滴酒造(株)(新十津川町)

金滴

1906(明治39)年創業。仕込み水には、ピンネシリ山系の徳富川(とくふがわ)の伏流水を使用。地元の生産者と連携し、地元の酒米を生かした芳醇でまろやかなうま味のある地酒造りに徹しています。

3 上川大雪酒造(株)(上川町)

上川大雪

【緑丘蔵(りょつきゅうぐら)】

2017年、酒蔵のなかった上川町に地方創生蔵を目指して創業。仕込み水は大雪山系の良質な天然水。酒米は信頼する生産者が作る道産の酒米を使用。伝統的な手法で小仕込み・高品質の純米酒造りが特徴です。

2 福司酒造(株)(釧路市)

福司

1919(大正8)年に創業の酒造蔵元。仕込み水は、道東の大自然で長い年月をかけて濾過された伏流水を使用しています。代表銘柄の「福司」は、道東の厳しい寒さと、蔵人たちの熱い心で醸されています。

1 碓氷勝三郎商店(根室市)

北の勝

代表銘柄の「北の勝」は、1887(明治20)年に根室で誕生しました。四季の移り変わりがはつきりしている気候風土と、基本に徹した伝統的な酒造りが、芳醇でデリケートな味わいを生み出しています。

11 田中酒造(株)(小樽市)

宝川

1899(明治32)年に小樽で創業した酒造蔵元で、道産米を100%使用した純米酒のみの製造にこだわっています。製造場「亀甲蔵」は、全国でも珍しい1年を通じて仕込む四季醸造蔵で、酒造りの見学も可能です。

4 上川大雪酒造(株)(帯広市)

十勝

【碧雲蔵(へきうんぐら)】

2020年に、帯広畜産大学構内に誕生した酒蔵。日高山脈に源をなし、何度も日本一の清流に輝いた札内川水系の中硬水と道産の酒米を使用。手造りの伝統的な製法で、小仕込み・高品質の酒造りを行います。

北海道の酒蔵

歴史ある蔵から新しく誕生した蔵まで。
同じ道産の酒米で造っても、
同じ味は一つとしてない個性の豊かさが魅力です。

14 三千櫻酒造(株)(東川町)

三千櫻

2020年11月に、岐阜県中津川市から道北の東川町へ移転。岐阜で培った伝統を継承しながら、北海道の風土が醸す、新たな味を追求していきます。酒米の味を生かし、かつ引きの良い良酒の生産を目指しています。

13 (有)ニセ古酒造(倶知安町)

ニセ古

1916(大正5)年創業。「加水調整しない原酒」「水」「空気」「環境」にこだわり、水はニセコワイス山系と羊蹄山の噴き出し湧水を使用。道産の酒米を主原料に、道産子が醸す地酒造りを追求しています。

12 日本清酒(株)(札幌市)

千歳鶴

1872(明治5)年創業。開拓の歴史とともに歩み続ける札幌の酒蔵。現在は六代目の女性杜氏が、その年に収穫した米から伝わる個性や特徴を見極め、豊かな自然を表現する北海道ならではの酒造りを行っています。

7 高砂酒造(株)(旭川市)

国士無双

1899(明治32)年旭川で創業。1975年に誕生した代表銘柄「国士無双」を中心に、道産米を使用。厳寒の気候を生かした雪中貯蔵や市民参加型の「農家の酒」など、ここしかない地酒を造り続けています。

6 合同酒精(株)(旭川市)

大雪の蔵

代表銘柄「大雪乃蔵」は、「本当にうまい北海道ならではの地酒」という熱い思いから、道産米を100%使用。大雪山系を望む旭川の清冽な水を使用し、丁寧に磨き上げられた酒は、すっきり冴えたキレのある味わいです。

5 男山(株)(旭川市)

男山 OTOKOYAMA

約350年前に関西で醸造を始めた男山ブランドを継承。大雪山系の伏流水を仕込み水に、キリッとした淡麗辛口の味を生み出しています。工場内には、男山酒造り資料館を併設。毎年多くの観光客が訪れています。